



聖路加

チャペル ニュース

2016年11月27日 No. 244



〒104-0044

東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416 (日曜)

TEL 5550-7043 (平日)

FAX 5550-7070

E-mail: chapel@luke.ac.jp

URL: [http://nssk.org/
tokyo/church/luke](http://nssk.org/tokyo/church/luke)



10月30日 ペーパーアート「ザアカイ」に出演した子どもたちとともに

聖書に学ぶ会

- 第1・第2日曜日 午後12時30分 聖書を読む会
 - 第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書
 - 第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書
- 場所…旧館2階 プライベートルーム／ロビー
日程変更の場合があるため事前にご確認ください。

巻頭メッセージ

人生のいろいろな場面 が演じられるチャペル

礼拝案内

月・火・木・金・土曜日

- 午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

- 午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3火曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

- 午前7時 聖餐式 トイスラーホール
- 午前10時 日曜学校礼拝 チャペル
- 午前10時30分 聖餐式・説教 チャペル
- 午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

チャプレレンスメッセージ

人生のいろいろな場面が演じられるチャペル

司祭 ケビン・シーバー

「教会は人々であって、建物ではない」と言われる。イエスさまは建物ではなく、十二使徒を中心としたコミュニティを立ち上げられた。洗礼を受けて世の中におけるキリストの体となる人たちが自身を「教会」(ekklesia)と呼び集められるもの)である。

とは言え、建物、祈りに集中できるスペースは大切だと思う。聖路加の創立者トイスラー博士も、世界一流の近代病院のただ中に、治療を受ける患者さんや医療スタッフのためにちゃんとしたチャペルを置くべきだと強く思った。「全人医療」を目指すなら、体の好調と心の情緒バランスだけではなく、魂——他人との関係、そして創造主である神との関係の主体となる魂も視野に入れなければならぬ。そのために魂のいやしを求められる場所、お祈りができる場所が必要不可欠だ、とトイスラー博士は訴えたのである。

トイスラー博士の望み通り、八〇年にわたり数え切れない人がこのチャペルに足を運び、祈ってきた。クリスマスチャンである、なしに関わらず、中に入ると、細長いステンドグラスの窓やそびえる柱によって視線が高い天井へと、そして心が天国へと導かれる。礼拝だけでなく大勢の人の人生

の最も重要な場面も祈りのうちにこのチャペルを舞台にして演じられてきた……

- 子どもたちが疎開中、二人だけでクリスマスマス礼拝を守る竹田チャプレング夫妻の姿
- 毎朝、回診前、白衣のまま静かに座る医者の方の姿
- 夜勤上がり、少し疲れた顔で気になっっている患者さんを神さまにゆだねる看護師
- 無事に生まれてありがとう、これからもよろしくね、と新生児を抱っこして祭壇の前に立つ父母
- 逆に、生まれることができなかった子どもを涙ながら天国にゆだねる母親の姿
- 手術中、大事な人のために必死に助けを求める人
- 点滴スタンドを引つ張り、車椅子で聖堂の前方でじつと座つため息をつく患者さん
- イエスさまに命をお預けしたく洗礼を受け、笑顔を見せる患者さん
- 「あなたとともに生涯を送ります」と誓い合う職員の輝かしい姿
- 愛するお嬢さんと一緒にパージョンロードをゆつくりと歩く入院中の父親
- そして数か月後、再び同じ中央通路を通過して「天国へ」と旅立つその父親の姿……

神さまは確かにどこにでもおられる。建物がなくても祈りはいつどこにいてもできる。それでも、世界中の病院を見回しても並ぶものがないこのチャペルのビジョンをトイスラー先生に与えてくださった神さまに感謝したい。チャペルこそ、病院・大学の「聖路加らしさ」を活かしている気がしてならない。ここで長年捧げられてきた大勢の人の祈りと一緒に、自分の祈りをこれからも加えていきたいところである。